

## フィリッピ人に達する書

第一章 パワエル及びティモフェイ、イイススハリストスの僕たる者は、フィリッピに在るハリストスイイススに於ける衆聖徒、及び諸監督と諸役事とに書を達す。二願はくは、恩寵と平安とは、神我等の父及び主イイススハリストスより爾等に賜らんことを。三我爾等を記念する毎に、我が神に感謝し、四恒に我が凡の祈禱に於て、爾等衆の爲に欣びて我が祈禱を爲す、五爾等が初の日より今に至るまで、共に福音に與るが故なり。六我深く信ず、爾等の中に善き工を始めし者は、之を成して、イイススハリストスの日に迫ばん。七我が此くの如く爾等衆を思ふは宜しきなり、蓋爾等我が心に在り、我が縲綵に、及び福音を辯明し堅固にする時に於て、爾等皆我と共に恩寵に與ればなり。八神は我の證者なり、我イイススハリストスの心を以て爾等衆を愛す。九且我が祈る所は、乃爾等の愛は益知識と凡の心情とに長じて、一〇爾等最善き事を辨へ、ハリストスの日に於て、純潔にして、疵なく、二イイススハリストスに由りて義の實を満て、神の光榮と讚美とを顯さんとするに在り。一二兄弟よ、我爾等が、我に在りし事が福音の益廣布するに助けしを知らんことを欲す、一三我の縲綵は、ハリストスに由りて、全公廨及び各處に著るるに至れり。一四主に於ける諸兄弟の

中多くの者は、我が縲綵に由りて力を獲て、益毅然として懼るるなく神の言を傳ふ。一五或る者は猜忌と競争とに因りてハリストスを傳へ、或る者は善意を以て之を傳ふ。一六彼の者は分争に因りて、正直ならずしてハリストスを宣べて、我が縲綵の苦を益さんと欲し、一七此の者は愛を以て之を宣ぶ、我が福音を辯明する爲に立てられたるを知るに因る。一八然らば何ぞや。如何に論なく、或は偽の心を以ても、或は誠を以ても、ハリストスの傳へられれば、我之を喜び、且之を喜ばん。一九蓋我此の事の我が救を致さんを知る、是れ爾等の祈禱とイイススハリストスの神との助に由りてなり。二〇蓋我何事に於ても愧を得ず、即凡の勇敢に依りて、今も常の如く、我が身に於て或は生、或は死を以て、ハリストスの讚榮せられんことを確信希望するなり。二一蓋我の爲に生くることハリストスなり、死するも亦益なり。二三若し肉體に於て生くること我が功に果を増さば、我何れを擇ぶべきを知らず。二三我二の者の間に介まれたり、釋かれてハリストスと共に在らんことを願ふ、蓋是れ最善なり、二四然れども肉體に留るは、爾等の爲に更に切要なり。二五且我確に知る、爾等の信の進と喜との爲に、我が留りて、爾等衆と偕に居らんことを、二六我が再爾等に來る時、爾等のハリストスイイススに於ける誇が、我に因りて益加はらん爲なり。二七惟ハリストスの福音に符ひて度生せよ、我が或は來りて、

爾等を見、或は離れて爾等が神を一にして共に福音の爲に闘ひ、二八 何事に於ても諸敵に恐れざるを聞かん爲なり。是れ彼等には亡の徴、爾等には救の徴なり、此れ神に由るなり。二九 蓋ハリストスの事に關して爾等に賜りしは、惟彼を信ずるのみならず、亦彼の爲に苦を受くるなり、三〇 乃爾等が曾て我に於て見し所、今我に於て聞く所の苦の如き者は是れなり。

第二章 一故に若しハリストスに於て安慰あり、若し愛の喜悦あり、若し神の共與あり、若し慈憐及び矜恤あらば、二爾等我が喜を滿たして、爾等の意を同じくし、愛を同じくし、靈を一にし、念ふことを一にせよ。三何事をも分争或は虚榮に由りて行ふ勿れ、乃謙遜にして、互に人を以て己より愈れりとせよ、四 各惟己の事を顧みるなく、乃 各人の事をも顧みよ。五 蓋爾等はハリストス イイススの意を以て意とすべし。六 彼は神の像にして、神と匹しくなる事を僭ふとせざりき、七 然れども己を虚しくして、僕の貌を受け、人と同じき者と爲りて、外形に於て人の如くなり、八 己を卑くして、死に至るまで順ひ、且十字架の死に至れり。九 故に神も彼を無上に高くして、彼に凡の名に超ゆる名を賜へり、一〇 凡そ天に在り、地に在り、及び地の下に在る者の膝は、イイススの名の前に屈み、一一 且凡の舌はイイスス ハリストスが主たるを承け認め

て、光榮を神父に歸せん爲なり。一二 故に我が至愛の者よ、爾等恒に我に従ひし如く、我が共に在る時のみならず、乃今我が在らざる時に於ては、更に恐懼戰慄を以て己の救を成せ。一三 蓋神は其善き旨を以て、爾等の衷に、望む事をも、行ふ事をも爲すなり。一四 凡の事を怨言なく疑惑なく行へ、一五 爾等が此の横なる悖れる世代の中に於て、疵なく玷なく咎なき神の子と爲らん爲なり。爾等は、彼等の中に、星の世に於けるが如く光りて、一六 生命の言を保つなり、我がハリストスの日に於て趨りしことの徒然ならず、勞せしことの徒然ならざるを誇らん爲なり。一七 若し我爾等の信の祭と奉事との上に濯奠とせらるとも、我喜び且爾等衆と偕に喜ぶ。一八 此の事爾等も亦喜び、且我と偕に喜べ。一九 我主イイススに頼りて速にティモフエイを爾等に遣さんことを望む、我も爾等の諸事を知りて、心を慰めん爲なり。二〇 蓋我に復同じき心を以て、眞實に爾等の事を慮る者なし、二一人皆己の事を求めて、ハリストス イイススの事を求めざるに因る。二二 然れども彼の忠信は爾等の知る所なり、蓋彼は子の父に於けるが如く、我と偕に福音に役事せり。二三 故に我己の事の如何にならんを知らば、直に彼を遣さんことを望む。二四 我主に頼りて、自も亦久しからずして爾等に至らんことを信ず。二五 然れども我兄弟エパフロデイト 我の同勞者及び同戰者、爾等の使者及び我の乏しきに供せし者を、爾等に遣すを

切要なりと意へり、二六 蓋彼は甚爾等衆を見んことを望めり、  
且爾等が其病みたるを聞きしを以て、深く憂ひたり。二七 彼は實に病  
みて死に近づけり、然れども神は彼を恤みたり、惟彼のみなならず、我  
にも及びり、我が憂の上に憂を加はらざらん爲なり。二八 故に我  
愈速に彼を遣せり、爾等が復彼を見て喜ばん爲、我が憂も減  
ぜん爲なり。二九 爾等主に由りて喜を盡して彼を接けよ、且此く  
の如き者を敬へ。三〇 蓋彼はハリストスの事の爲に、死に近づくに  
及び、己の命を顧みざりき、爾等も我に於ける供事の缺くるを  
補はん爲なり。

第三章 一之を要するに、我が兄弟よ、主に於て喜べ。此等の事を書  
して爾等に達するは、我が爲に煩はしからず、爾等の爲に益あり。  
二 爾等犬を愼め、悪を行ふ者を愼め、割を愼め。三 蓋割禮とは、  
即我等神を以て神に事へ、ハリストス イイイスを以て誇と爲  
し、肉體を恃まざる者是なり。四 然りと雖 我も肉體を恃むを得べし。  
若し他人肉體を恃むを得と意はば、我更に之を得るなり、五 我第八日  
に割禮を受け、イズライリの族、ウェニアミンの支派に屬し、エウレ  
イ人よりするエウレイ人、律法に由りてはファリセイ、六 熱心に由り  
ては神の教會の窘逐者、律法の義に由りては玷なき者なり。七 然れ  
ども我が益たりし者は、我之をハリストスの爲に損と爲せり。八 且

一切を以て損と爲す、ハリストス イイイス我が主を識る知識の勝れ  
たるが故なり。彼の爲に我一切を以て芥帯と爲す、ハリストスを獲ん  
た爲 九 且律法に由る己の義を以てせずして、ハリストスを信するに由  
る者、即信に循ひて、神に由る義を以て、彼の中に居らん爲、一〇  
彼及び其復活の能を知り、且其苦に與るを知りて、彼の死に効  
はん爲なり、一一 或は如何にしてか死より復活するを得ん。一二 我已  
に獲たり、或は已に全くなれりと、言ふに非ず、惟我追ふ、或は之  
を獲ん、ハリストス イイイスの我を獲たるが如し。一三 兄弟よ、我已  
を以て獲たりと意はず、我惟一事を務む、即 後を忘れて、前に進  
む、一四 標準に向ひて、ハリストス イイイスに於ける神の上よりの召  
の褒賞を追ふなり。一五 故に我等の中全き者は、此くの如く思ふべ  
し、若し爾等に何事に於てか異なる思あらば、神は之をも爾等に示  
さん。一六 然れども我等已に至りし所は、我等之を思ひ、此の規に遵  
ふべし。一七 兄弟よ、我に效へ、且我等を模範として行ふ者を視よ。  
一八 蓋多くの人、我が屢爾等に言ひ、今又泣きて言ふ所の者は、  
ハリストスの十字架の敵の如くに行ふ。一九 彼等の終は滅なり、  
彼等の神は腹なり、彼等の榮とする所は辱なり、彼等は地上の事  
を思ふ。二〇 我等の居處は天に在り、我等は彼處より救主、即我等  
の主 イイイス ハリストスの來るを待つ。二一 彼は萬物を己に服せし  
むるを得る能に因りて、我等の卑しき體を化して、其彼の光榮の

體に象れる者と爲るを致さん。

第四章 一故に我が愛する所、慕ふ所の兄弟、私の喜、私の冕、我が至愛の者よ、斯く主に在りて立てよ。二我エワイディアに勧め、シンティヒヤに勧む、主に在りて意を同じくせんことを。三然り、親しき朋よ、我亦爾に求む、此の二の婦、我とクリメント、及び其餘の我の同勞者、其名の生命の書に録されし者と偕に福音に勞せし者に助けよ。四爾等恒に主に在りて喜べ、又言ふ、喜べ。五爾等の溫柔は衆人に知らるべし。主は近し。六何事をも慮る勿れ、乃凡の事に於て、祈禱祈願且感謝を以て、爾等の求むる所を神に告げよ、七然らば神の平安、凡の知識に越ゆる者は、ハリストス イイスに於て、爾等の心と爾等の念とを守らん。八之を究むるに、我が兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ尊きこと、凡そ義なること、凡そ潔きこと、凡そ愛すべきこと、凡そ稱すべきこと、如何なる徳、如何なる譽も、爾等之を念へ。九爾等が、我に學びし所、受けし所、聞きし所、見し所は、之を行へ、然らば平安の神は爾等と偕に居らん。一〇爾等が已に復我を慮る意を起ししは、我主に於て甚之を喜ぶ、爾等先にも慮れり、惟機を得ざりしなり。一一我乏しきに因りて、此を言ふに非ず、蓋遭ふ所を以て足れりとするを學べり。一二我貧しきに居ることをも知り、富に居ることをも知る、凡

の事に於て、飽くことにも、飢うることに、豊なることに、歉しきことにも、皆熟練せり。一三我を堅むるイイススハリストスに由りて、我能せざる所なし。一四然れども爾等は我が患難に與りて、行ひし所善し。一五フィリッピ人よ、爾等知る、福音を傳ふる始め、我がマケドニヤを出でし時、與ふること及び受くることに於て我に與りし者は、惟爾等のみにして、他の教會は一もなかりき。一六爾等フェサロニカにも、一次も、二次も、私の乏しきに供する爲に送れり。一七我が之を言ふは、贈を求むるに非ず、乃爾等を益する實の繁からんことを求むるなり。一八我一切を得て餘あり、我エパフロデイトより爾等が送りたる諸物を馨しき香、納れらるべき祭、神の悦ぶ所の者として受けて、満ち足れり。一九願はくは我の神は、其光榮の富に循ひて、ハリストス イイススに依りて、爾等が凡の需むる所を充たさん。二〇願はくは光榮は神我等の父に無窮の世に歸せん、「アミン」。二一爾等ハリストス イイススに在る衆聖徒に安を問へ。我と偕に在る諸兄弟は爾等の安を問ふ。二二衆聖徒、特にケサリの家に屬する者は、爾等の安を問ふ。二三願はくは我等の主イイススハリストスの恩寵は爾等衆と偕に在らんことを、「アミン」。